

# 会員の ひろば

## マッカーサーの生涯

小樽市医師会  
野口病院

### 本間 勉

#### 1. はじめに

1941年12月（68年前）に太平洋戦争が勃発するや、南西太平洋方面軍総司令官に米国のダグラス・マッカーサー元帥が指名されて、日本軍との激戦の末、国際連合軍勝利の立役者となり、日本の無条件降伏を受け入れて占領軍の最高司令官として日本の厚木飛行場に降り立ったパイプをくわえた雄姿を忘れることはできない。そして5年8ヵ月間、日本の進路と復興に努力されたのである



1945年8月、日本軍の占領最高司令官であるダグラス・マッカーサー元帥の雄姿である。

#### 2. 日本の進路決定

- ①占領後5年8ヵ月にわたって、日本の最高責任者として根本的種々の改革を実施した。
- ②軍国主義を民主主義に大改革化。
  - ・女性参政権の確立
  - ・自由民主教育の施行
  - ・財閥の解体
  - ・農地解放改革
  - ・戦争の恒久放棄
  - ・日本国憲法の制定(マッカーサーメモ)
  - ・天皇制の尊重(戦争責任を不問

し、写真を対策に利用)

- ③「ポツダム宣言」(米・英・中国首脳、占領政策、ロシア不参加、1945年7月26日)
  - ・1945年9月2日、東京湾の戦艦ミズーリ号で日本降服調印式を行う
  - ・皇居前第一生命ビルに「GHQ(連合軍総司令部)」開設
  - ・日本軍武装解除
  - ・戦争犯罪人(日本人)の処罰
  - ・軍国主義除去(1ヵ月で日本軍解体完了)
  - ・民主主義確立努力
- ④「五大改革指令」(10月11日)
  - ・新任日本首相の幣原喜重郎にマッカーサー指令
  - イ)女性解放(選挙権確保)
  - ロ)圧政的諸制度の撤廃
  - ハ)労働組合結成
  - ニ)学校教育の自由化
  - ホ)経済の民主化

◎大日本帝国憲法の改正(マッカーサーメモ中心、11月3日公布)

◎緊急輸入食糧の放出(1946年6月～9月、70万トン)  
食糧危機脱出→復興への第一歩となる

#### 3. 出自と出世

①誕生…米国南部アーカンソー州リトルロック砦(南北戦争の騎兵隊基地)で1880年誕生。祖父は著名な判事であり、父は南北戦争の英雄で陸軍史上最年少で大佐となったエリート軍人である。兄は海軍兵学校卒で海軍の高官。

②出世…1903年、全米きっての難関校ウエストポイント陸軍士官学校を、過去25年内で最高の成績を残して卒業した。しかも野球やフットボールの選手でもあったという(万能秀才である)。

- ・卒後、最短昇進コースの士官候補生として、父が軍事総督であるフィリピンに赴任した。しかし1年でマラリアになり帰国したが、参謀本部勤務となり順調に出世した
- ・1914年、第一次世界大戦で州兵の“レインボー師団”を結成して参謀長となり、欧州で参戦。

2度の負傷を負いながら戦功をあげ、15個の勲章を受章した

- ・戦後38歳で史上最年少の准将、母校ウエストポイント陸軍士官学校の校長となり、1925年少将に昇進して、1930年に参謀総長に就任、50歳で陸軍大将となる。いずれも最年少記録を更新している

- ・1935年にはフィリピン軍事顧問となり国民軍創設に尽力。6年後の1941年7月、米国極東軍司令官となり、1947年には陸軍元帥になった

③マッカーサー将軍の脱出劇(敗退)

1941年12月8日、日本軍のフィリピン急襲で米国軍基地航空部隊がわずか2日間で壊滅し、日本軍上陸によりマッカーサーはマニラからコレヒドール島の要塞に撤退(脱出)した。さらに敵前逃亡のごとくオーストラリアまで逃亡している。

- ・1944年7月、マッカーサーは「飛び石作戦(三位一体作戦)」を考案して、脱出の屈辱を果す侵攻作戦を展開した

- ・「三位一体作戦」
  - イ)海軍支援による人的・物的補給路の切断
  - ロ)孤立化・無力化・食糧難を狙う
  - ハ)制空権奪取(次々に飛行場爆撃)
- ・「飛び石作戦」
  - イ)台湾制圧
  - ロ)フィリピン奪還
  - ハ)沖縄攻撃、本土空爆

#### 4. マッカーサーの日本人観

1951年、近代文明の尺度で計る日本人評。

- イ)欧米諸国が400年前に捨てた封建社会維持
- ロ)われわれが45歳なら日本人は12歳程度
- ハ)従順なので好きなように教育できる
- ニ)日本国憲法制定を1946年1月に指令し、3ヵ月後に草案(英訳)を提出すると、マッカーサーは民主的でないとして即座に却下し、“マッカーサーメモ(草案)”を吉田茂に渡し、“即刻、改正案を

提出しなければ、天皇に何が起  
こってもGHQは知らないぞ”と  
命じたという

同年6月20日、議会で可決され  
た。まさにマッカーサーノート  
に沿って起草されている

ホ) “日本経済無力化作戦”の復興  
促進として、まず食糧輸入を続  
けることにした

## 5. 昭和天皇とマッカーサー元帥との記念写真

1945年9月27日、天皇が米国大使  
館にマッカーサーを訪問した。マ  
ッカーサーは玄関に出迎えなかつ  
た（減刑依頼と直感したため）。

・昭和天皇訪問の趣旨

- (1) 自分の身の処置は貴殿にお任  
せする
- (2) 国民が飢えているので食糧の  
支援を切望
- (3) 戦犯の減刑依頼している
- (4) 要望の件があればお聞かせ下  
さい

・記念写真が新聞に掲載していな  
かったことでマッカーサーは激  
怒し、握手のこととともに記事  
にさせた（言論の自由と新聞記  
事の罰則なきよう命令してい  
る）

・マッカーサーは10年近く日本に  
在住したが、天皇以外と写真を  
撮ることは一度もなかったとい  
う（マッカーサーは日本国が天  
皇中心主義国家であること、天  
皇利用で国民が左右されること  
を十分知っていた）



## 6. マッカーサー解任

・1950年6月、“北朝鮮”が北緯38度  
線を越えて韓国に侵入し、猛烈  
な勢いで南進し首都ソウルを制  
圧、韓国軍を半島南端まで追い  
詰めた

・アメリカの“トルーマン大統領”  
は朝鮮半島への軍事介入を決断  
し、国連軍の派遣を要請、在日  
アメリカ軍に出動を命じて、7月  
7日マッカーサーを国連軍総司  
令官に任命した

・マッカーサーは早速9月15日に  
ソウル外港“仁川”に上陸して  
補給路を断ち、南北挟撃の大規  
模奇襲作戦で北朝鮮を38度線以  
北に後退させるのに成功した。  
しかし、10月25日、中国人民志  
願軍が参戦し、再び混戦となる

・トルーマン大統領はマッカー  
サーに中国本土への攻撃を固く  
禁じていたので、12月1日、マッ  
カーサーはこの命令を解除しな  
ければ到底解決しないと強く大  
統領に打電したところ、シビリ  
アン・コントロール（文民統制）  
の立場から更迭された

・マッカーサーが解任後に友人に  
語ったところによると、北朝鮮  
に数十発の原爆を投下すれば10  
日間で勝利できるといったとい  
う。トルーマンは朝鮮戦争が第  
三次世界大戦に拡大することを  
恐れ、原爆使用は全く考えてい  
なかったと明言している。また、  
中国共産主義者を戦争に引き  
込むことだけは決してやめて  
ほしいと願っていた

## 7. 大統領への野望

・1951年4月16日、帰国するヤサン  
フランシスコで50万人、ワシン  
トンでも50万人が沿道を埋めて  
熱狂的歓迎を受け、市民の3分の  
2からトルーマンの解任命令反  
対があったという

・同年4月19日、米国上下両院の合  
議で最後の演説を行い、“老兵は  
死なず、ただ消えゆくのみ”の  
名言を残して市民に深い感銘を  
与えた

・1952年、共和党大統領候補者  
として全米各地で講演活動を始  
めた

・演説は政策よりも自らの“武勇  
伝”が多く、また彼への批判に  
対する過激な発言に終始したの  
で、評判は悪く人気は徐々に低  
下した。さらに組織的協力もし

なかったため、大統領指名大会  
では部下であった“アイゼンハ  
ワー”が第1回の投票で指名され  
た（予備選でマッカーサーは敗  
退している）

1964年、84歳で死去している。  
マッカーサー元帥は軍人として  
の能力は抜群であったが、政治  
家としての能力は弱小であった  
という人が多かった。

## 文献

歴史のミステリー 76号（週刊誌）、  
ほか

## はまなす

石狩医師会

## 御園生 潤

今夏の道内はとりわけ前半が天  
候不順であり、低温と日照不足で  
農作物の生育に大きな影響が出  
た。道外でも梅雨前線の活動の活  
発化等により、豪雨による痛まし  
い災害が発生している。

7月30日に室蘭を訪ねる機会に  
恵まれ、約15年ぶりに室蘭駅周囲  
を散策することができた。かつて  
の室蘭駅もレトロ調の貫禄のある  
ものであったが、改築された現駅  
舎は吹き抜けのモダンなものにな  
っていた。駅ホームとの間にはス  
ロープ状のなだらかな連絡通路が  
存在していたが、これは昔のまま  
であった。

札幌から利用した列車は785系  
車両となったL特急「すずらん4  
号」。夏休みでごった返す同駅  
ホームを14:37に定刻発車。半分  
ほどの座席が埋まり、通路を挟ん  
だ窓側席にはミニチュアダックス  
フンドを抱いた女性が座ってい  
る。愛犬が人懐っこそうにこちら  
を向く姿に二人でほほ笑んだ。「す  
ずらん」はこまめに停車し、旅客  
の乗降に便宜をはかっているが、  
前回（平成19年10月）のダイヤ改  
正により、沼ノ端駅（苫小牧市内）

にも停車するようになった。ご存知の通り、上下の「すずらん」は東室蘭～室蘭間の各駅に停車する（普通列車扱い）が、輪西、御崎、母恋、そして仏坂トンネルを越えて室蘭に終着する。快晴に恵まれたこの日には、御崎あたりからは測量山の逆光線ごしのシルエットが浮かび上がり印象的であった。

折り返し東室蘭にもどり駅舎の大改装とバリアフリー化の進行に驚きながら、4年ぶりに下車した同駅と周囲の街並みの変化を目に焼き付けた。

室蘭には以前の職場でも通ったなじみのベテランナースが何名かいる。いまだに年賀状の交換と、時たまではあるが電話でやりとりをしている。本来ならばお会いして近況の報告をし合いたかったのであるが、このようなご時勢でもあるし、相互の負担を考え、電話で完結することにした。10分ほどの電話であったが、事情を伝えると驚きとともに感激の声をあげてくれた。10分間の市内通話が1時間の重みを持つようにも感じられた。かつての職場を後にしてからの年数はお互い違うが、共通して言えることは、退職後、相応の年月を経て、かつての辛い思い出も今や風化し、現在の生活に同化しているということであった。電話の最後に「先生、いつまでも元気でいてね」と叫んでくれた彼女は、私にとって「いつまでも」は「少しでも長く」と解された。長年、多くの医師たちを見てきて、医師も結局は「身体」であることを熟知している彼女ならではの言葉と感じた。



一泊後、帰路に利用したのが、一度体験してみたいと切望していた急行「はまなす」(201レ)の旅であった。東室蘭発4:17、札幌着6:07と千歳・室蘭本線を時間調整しながら、ゆったりと走行する14系客車である。客車列車が次々と消え、最後の牙城となったブルートレインも次々と姿を消している。自由席もあり、割安に乗車で

きる「はまなす」は人気の列車で、ねぶた祭りのころには満席となる。私の大学生時代後半には、旧型客車から置換されたこの14系が各線区を走行していた。急行「まもり」大雪山「利尻」天北「ニセコ」など懐かしまれる読者の方も多かろう。

この日乗車した「はまなす」は、青森を前夜22:42に始発し、青函隧道を越え、函館で進行方向を変えて、以後は7号車が先頭車となる。午前4:17分の発車であるが、「朝型」人間の私には苦にはならない。東室蘭からの乗車客は10人ほどおり予想以上であったが中に2名のビジネスマンがおられたことに驚いた。身体にはきついが、札幌に早朝時間帯に入れる列車として貴重な存在なのであろう。時代の厳しさの一端を垣間見たような気がした。

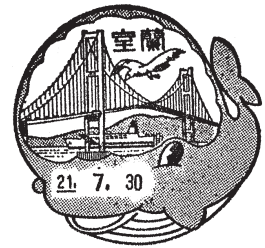
東室蘭駅5番ホームには「急行はまなす 4:17」と、くっきりと電光表示が点灯している。やがて駅員の乗車位置の柱番号案内放送があり、「隣の駅を出ました」と赤色の表示が点滅する。ほどなく、ブルー塗装のDD51に牽引されたブルー車体の「はまなす」が入線してきた。指定をとった6号車はリクライニングシートにフットレスト装備であった。函館での方向転換のため列車の進行と逆方向でシートで眠りに落ちている方が目立った。

東室蘭で夜が明け始め、薄明の中、各種照明灯が街を幻想的に照らし出す。次々と貨物列車とすれ違い、夜行列車のためか登別も通過。社台のあたりでは、朝もやの中、すでに(5時少し前)放牧されている馬の姿も見られ、夜行列車ならではのこの区間の「夜明けの風景の移ろい」を初めて味わえたことが収穫であった。新札幌を発車して12分かけて札幌に到着するが、白石駅のあたりでチャイムが鳴って到着案内。客車列車用のこのチャイムの音を聞くのも、本当に久々である。

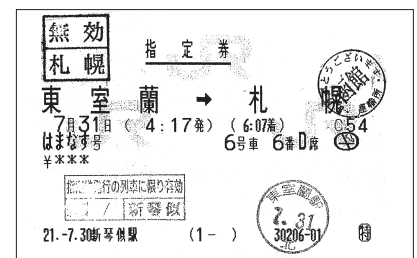
到着後、列車の先頭に向かい、

「はまなす」のヘッドマークをつけた機関車などを映像に収めた。多くの旅客(鉄道ファンら)も機関車、7号車を取り囲んでおり、人気を感じた。車内点検後、同列車が札幌運転所に回送されるのを見送ろうと3番ホームに残る。2番線から6:12に先行する然別行きが始発列車を出し、しばらくすると3番線西側の出発信号機が黄色、そしておもむろに青色に変わる。ブザーが鳴り響き、ホイッスルを力強く鳴らして回送202レはホームを離れた。6:20の出発であった。そして私は地下鉄駅へと向かった。

この日乗車した「はまなす」6号車には、車内に「新潟鐵工所 昭和49年」釧路車両所 昭和63年度改造の小さなプレートがかかっていた。私が中学生のころから本州等で活躍し、現在は「はまなす」の車両として活躍している息の長さに驚くのみであった。



〈室蘭郵便局の風景日付印〉  
モチーフは白鳥大橋、室蘭港と鯨。



〈当日の指定券〉  
乗車には他に乗車券と急行券が必要。  
Sキップも使用可。

## 緑陰随想後日談

旭川市医師会

吉野神経内科耳鼻咽喉科アレルギー科医院

吉野 成一

私は、旭医広報部担当の上村理事のご高配で、道医報第1091号（2009年8月1日付）に寄稿し、「独り息子の急死」を掲載いただきました。その文中、1周忌の朝に私が線香をあげたら、仏壇から7センチくらいの黄金の毛の虫が出てきた話の後日談です。

私は息子の生まれ変わりかと思ひ、その虫が何だろうかと図書館で調べたり、書店で立ち読みしたりで虫図鑑を見たのですが、残念ながら確認できませんでした。しかし、道医報の緑陰随想を読んだ

ところ、私の原稿の4ページ後ろ（36ページ）に掲載されていた羊蹄医師会の高階先生が書かれた「第二のふるさと」の記事に、私を見た虫とそっくりの虫の図が掲載されていました。私は「パパ、私はここにいるんだぜ」と語りかけられているように感じました。

しかも常日頃から私に因縁がある「6」のつくページです（私は日頃から「6」の数字にこだわります）。母の亡くなった日も26日、兄の戦死した日も6日、経営している施設の車もオール6がつき、私の車も64-64、自宅の電話番号も60-6333です。ああ、私の生年月日も6月10日、一人娘も6月2日。このように不思議と因縁があるようです。

緑陰随想に原稿を送った後、私は文中語句のいくつかの誤りに気付きました。いずれ掲載前に校正

しようと思っていましたが、道医からいただいたFAXが薄字だらけで判別のつかない状態でした。こんなことは今まで一度もなかったはずです。私はこれを見て、記事にした息子が「オヤジ、誤字、訂正しないでこのままでいいんじゃない」と言っているようで、このためきっとFAXの文字が薄くなったんだと思いました。亡くなった息子は、いつも私の周りにはいたんだなアとつくづく思いました。

今でも何かあれば夢に出てくれる息子。おとなしく一度も怒ったことのない息子だった。ただ、残念なことは、若くして亡くなったこと。私には無念さは残るけど…、これからも何かあれば夢に出てくれることを望んでいくヨ。合掌。

## お知らせ

### 医療法人の附帯業務の拡大等について

◇医業経営・福利厚生部◇

厚生労働省医政局長から表題について通知がなされました。

医療法人は、附帯業務として、高齢者の居住の安定確保に関する法律に規定する「高齢者専用賃貸住宅」(高専賃)の設置が認められております。しかしながら、先般の法改正により、高専賃を含む登録制の「高齢者円滑入居賃貸住宅」に登録基準が導入されることに伴い、施行日(平成22年5月19日)にはその登録の効力が失われることとなります。

したがって、その設置する高専賃が登録基準を満たせず、改めて登録することができない場合には、当該医療法人は医療法に抵触することになりかねません。そのため、日本医師会では、厚生労働省に対して善処を求めてきました。

その結果、改正法の施行日において現に存する高専賃の設置に経過措置を設け、その登録の効力が失われた場合であっても、一定の条件の下に、附帯業務として認めることとするものであります。併せて、障害者の雇用の促進等に関する法律に規定する「障害者就業・生活支援センター」が新たな附帯業務として追加されました。

※ 一定の条件の下とは、次の(1)から(3)までのいずれかのサービスの提供を継続的に行うことを約しているものに限り、なお医療法人が設置することができるとなっています。

- (1) 居住者に対する生活指導や相談に応じるサービス
- (2) 居住者の安否を定期的に確認するサービス
- (3) 居住者の容体急変時における応急措置、医療機関への通報等の緊急時対応サービス